



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2014年度 No.1)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆2014年度運営委員長からのご挨拶
- ◆FIT2014 (第13回情報科学フォーラム) 開催のご案内
- ◆HCGシンポジウム2014への投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (WIT研究会)
- ◆研究会活動報告 (CML研究会)

2014年度運営委員長からのご挨拶
—20年後のヒューマンコミュニケーショングループ—

HCG委員長
中村裕一 (京都大)

ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) はその名前の通り、人のコミュニケーションをテーマとした学会組織です。人と情報システムや社会とのかわりあいやその基礎となる人間自身の性質や文化を研究対象とする研究会の集合体となっています。4つの第一種研究会 (ヒューマンコミュニケーション基礎, ヒューマン情報処理, マルチメディア・仮想環境基礎, 福祉情報工学) が活発に活動を続ける一方, 4つの第二種研究会 (発達障害支援, ヒューマンプロンプト, 食メディア, 情報の認知と行動), 2つの第三種研究会 (ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション, 人と場所のつながりデザイン) もそれぞれ人にかかわるユニークな研究を小回りの効く方法で展開しています。

いずれの研究会も, その活動が心理, 生理, 医療, 人文, 社会, 言語, 教育など, 幅広い範囲にかかわっているため, 電子情報通信学会の外の方々も積極的に交流しながら活動を進めてきました。また, 他のソサイエティに属する研究会との掛け持ちで活動されている方も多くいます。私はマルチメディア・仮想環境基礎研究会の専門委員長を務めました, それ以前から情報・システムソサイエティのパターン認識・メディア理解研究会にお世話になっておりました。同じ学会内で共通の興味を持ちながら, HCGがきっかけで初めて知り合った方々も多くいます。HCGの大きな特色は, このような学際的, 横断的な交流の場を提供していることですが, それだけではなく, まだ研究分野や研究トピックになりきっていない萌芽的な研究を熱心に議論したり, 分野として育てていく気風があるところも特長となっています。第二種・第三種の研究会の比率が大きいことにもそれが現れています。毎年各研究会が一堂に会するHCGシンポジウムも徐々に参加者を増やし, 2013年は200名以上に集まって頂きました。2014年以降も様々な企画を交えながら, ヒューマンコミュニケーションに関する多くの人が情報交換をする場として開催する予定です。

20年前に先達の先見によって生まれたHCGは, 社会の動きや研究者のニーズにマッチし, 研究サロンとして成功を収めてきたと言えるでしょう。このような組織をより持続・発展させたいとの自然な要求がある一方で, 時代に合わせて変わらなければならないという使命もあります。現在, 電子情報通信学会では, 学会のあり方に対する議論が活発に行われており, HCGもその渦中にあります。20年後にHCGが今の形で存続していると自信を持って言い切れる人はいないでしょう。しかし, これは悲観的な話ではなく, 逆に, 良い方向に向かって変わって行く気概があれば, 名前や形式はどうあれ, 良い結果が自然についてくるものと考えています。

今年度は, HCGの将来へ向けた重要な課題として, 学会論文誌の中でHCGが担当する特集号を増やすことを検討しています。HCGの外からも論文を投稿してもらえるように, また, 多くの方に購読してもらえるように, 魅力ある内容を揃えることもそれに付随する課題です。そのためには, 萌芽的な研究が論文になるまで皆で育てていくことも必要となってくるでしょう。それには, 上であげたHCGの特色と気風がきっと良い方向に働いてくれるものと期待しております。

20年後はHCGという名前ではないかもしれませんが, 伝統を保ちつつも, 日本の学会の置かれた厳しい状況を打破するような組織となること, またそのために変わっていきける組織となることを目指しております。運営委員会一同が努力をして取り組みたいと思いますので, HCGの発展に向けて多くの皆様からのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

FIT2014 (第13回情報科学フォーラム) 開催のご案内

HCG企画幹事
川原靖弘 (放送大)

電子情報通信学会 (ヒューマンコミュニケーショングループ, 情報・システムソサイエティ (ISS)) および情報処理学会 (IPSJ) が共催する, FIT2014 (第13回情報科学技術フォーラム) の開催をお知らせいたします。今年度は, 筑波大学において開催されます。

- ・会場: 筑波大学 筑波キャンパス
- ・会期: 2014年 9月 3日 (水) ~ 5日 (金)

最新情報につきましては下記をご覧ください。
<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2014/>

本フォーラムは, IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが, 従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し, タイムリーな情報発信, 活気ある議論・討論, 多彩な企画, 他分野研究者との交流などを実現することで, 2002年から毎年継続開催しております。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2014船井業績賞は, 辻井潤一様 (マイクロソフトリサーチアジア首席研究員) の受賞が決定しており, 受賞記念講演「日本を離れて研究をするために」が 9月 4日 (木) に予定され

ています。この講演は無料ライブ配信を予定しておりますので、ご参加いただけない方にもお楽しみいただけます。

なお、一般講演の応募論文からは船井ベストペーパー賞とFIT論文賞が選定されるとともに、聴講者による現地投票も反映されるヤングリサーチャー賞もありますので、参加者は是非積極的な聴講と投票をお願いします。その他、以下のような、情報科学技術に関する様々なテーマの学会・研究会企画によるイベントが企画されていますので、是非ご参加ください。

【9月3日(水)】

- ・会誌「情報処理」編集委員会女子部？番外編！
- ・大学発ベンチャーの現在：東大・情報理工学系研究科を起点として
- ・映像符号化・配信技術の最新標準化動向
- ・移行工学改め引退工学
- ・エクサスケールコンピューティング時代の大学スパコンセンターの役割
- ・DTN最前線～時空間を超えてデバイスを紡ぐ新しい情報基盤へ～
- ・新しい個人情報保護の枠組みとパーソナルデータの匿名化措置はどうか？

【9月4日(木)】

- ・自然計算研究の最前線とその将来
- ・時空間を制限したプライバシー情報保護活用のための社会基盤の構築に向けて
- ・新しい時代の情報保護と情報利活用—セキュリティ技術，法律，マネジメント—
- ・電子ポイント（仮想通貨や企業ポイント）について語る
- ・イノベーションを生み出すビジネスモデルに直結した情報システムを構築するには

【9月5日(金)】

- ・情報の流れに着目した実時間分散処理基盤—IoTとクラウドソーシングの観点から—
- ・コミュニティによるものづくりとサイバーワールド
- ・2020年のサイバーセキュリティ戦略～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～
- ・CPS（サイバーフィジカルシステム）最前線—実世界のビッグデータはどのように活用されているか—
- ・第2回高性能コンピュータシステム設計コンテスト

HCGシンポジウム2014への投稿のご案内

HCG企画幹事
今井順一（千葉工大）

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）が主催するHCGシンポジウム2014への投稿のご案内です。

- ・会場：海峽メッセ下関（山口県下関市）

- ・会期：2014年12月17日（水）～19日（金）
- ・発表申込締切：2014年9月3日（水）24:00 JST
- ・発表原稿締切（予定）：2014年10月17日（金）24:00 JST
- ・副題：ヒト・モノ・トコロを紡ぐ豊かな情報を発信するICT
- ・招待講演：森 朗（株式会社ウェザーマップ；気象予報士）

発表申込や最新情報につきましては下記をご覧ください。
<http://2014.hcg-symposium.org/>

本シンポジウムでは研究者間の交流を促進しております。その一環として、今年も全ての口頭発表者に対しインタラクティブ発表枠を付与いたします。

- ・口頭発表者によるインタラクティブ発表は義務ではありませんが、コアタイムにはできるだけご参加ください。
- ・インタラクティブ発表ではポスタ（印刷したスライドも可）を掲示して頂きます。ノートPCを用いたデモも可能です。
- ・インタラクティブ発表のみの参加者も募集します。萌芽的な研究やプロジェクト紹介などにご活用ください。

特に学生の皆様にとっては、修論・卒論等の執筆開始時期に合わせて、外部研究者からの多様な意見が得られ、より多面的な観点でバランスのとれた論文執筆に役立てられます。ぜひ積極的にご参加ください。

また、特定のトピックに関する研究発表を集めた「オーガナイズドセッション（OS）」を企画いたします。詳細はWebページをご覧ください。

- ・OS1：「コミック工学」
オーガナイザ：松下光範（関西大）
- ・OS2：「ヒューマンセンタードデザインの理論と実践」
オーガナイザ：新井田統（KDDI研）・大野健彦（NTT）
- ・OS3：「雰囲気工学」
オーガナイザ：湯浅将英（湘南工科大）・片上大輔（東京工芸大）
・小林一樹（信州大）・田中貴紘（名大）
- ・OS4：「G空間コンピューティング：センシングからコミュニケーションまで」
オーガナイザ：蔵田武志（産総研）

本シンポジウムでは優れた研究発表を下記の通り表彰する予定です。

- ・最優秀インタラクティブ発表賞

- ・優秀インタラクティブ発表賞 (一般のみ)
- ・学生優秀インタラクティブ発表賞 (学生のみ)
- ・オーガナイズドセッション賞

昨年は研究発表108件 (口頭76件, インタラクティブのみ32件), 参加者206名と過去最大規模となりました。今年も皆様のご投稿をお待ちしております。

シンポジウムに続き, 電子情報通信学会論文誌「情報・システム: D」においてヒューマンコミュニケーション特集号が予定されております。ぜひご投稿ください。本シンポジウムでの優秀な論文は本特集号へ推薦いたします。

情報保障のご案内:
視覚や聴覚等に障がいをお持ちの方に対し情報保障を行います。詳細はWebページをご覧ください。

研究会活動紹介 (WIT研究会)

WIT研究専門委員長
井野秀一 (産総研)

福祉情報工学研究会 (WIT: Well-being Information Technology) は, 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) の第2種研究会として, 1999年に発足しました。それは, 障害のある人や高齢者の情報・通信関連の諸課題に対応する工学技術をはじめ, 認知科学・言語処理・ヒューマンインタフェースなどの人間科学を含む諸領域で活動する人たちが一同に会し, おのおの研究開発や考えをオープンなスタンスで発表し, 討論を深める場を提供することを目的とした船出でした。その後, 活発な研究会を全国各地で開催し, 2年後 (2001年), 第1種研究会に昇格しました。この年は, 福祉に関わる重要な出来事として, 新しい健康観と障害観を反映したICF (国際生活機能分類) が世界保健機構 (WHO) から発表され, ICIDH (国際障害分類) に代わって, 生きることの全体像に焦点が当てられるようになりました。

WIT研究会では, これらの国内外の健康・福祉の潮流と呼応しながら, 今では誰もが知る言葉となったバリアフリーやユニバーサルデザインなどの福祉技術 (Quality-of-life technology) を考える人たちの学際的交流の場として, 研究者・当事者・支援者らを横断的につなぐ役目を果たす研究会として, 今日に至っています。また, 情報交換の仕掛けとして, 誰もが自由に参加登録できるメーリングリスト (wit-mail) を研究会設立の早い段階から準備し, 当研究会の開催案内はもちろんのこと, 他研究会の活動案内から福祉の最新情報までを適時提供してきました。加えて, 情報保障やアクセシビリティを誰もが十分に理解できるとはいえない社会背景を鑑み, 2004年にWITメンバを中心としてHCGのなかに情報保障WGが設立され, 「論文作成・発表アクセシビリティガイドライン」「情報保障マニュアル」がまとめられ, 公表されています。さらには, より詳しく一冊の本にまとめた「会議・プレゼンテーションのバリアフリー」(コロナ社)も発刊されています。

ここ数年のWIT研究会は, 1年に5~6回のペースで開催し, 多くの地域の人たちが参加できるように全国各地 (昨年は, 新潟・札幌・鹿児島・東京・つくば)

を巡っています。関連学会・研究会との交流も積極的に行い, 人間工学・健康支援・看護ケアなどの諸領域とWITとの親和性を感じました。また, 優秀な発表に対する「ヒューマンコミュニケーション賞」のWIT選考方法の改善にも取り組み, 発表内容は当然のこと, アクセシビリティガイドラインを評価軸に含めた採点基準を新規に定め, 本年から運用開始しました。

以上, WIT研究会の設立から今日までの動向と最近の活動のトピックスを紹介いたしました。設立当時から続く自由な議論とアクセシブルな環境づくりを大事にした研究会運営を今後も幹事団一同で心がけ, 夢ある未来の福祉社会に向けた研究開発の芽がひとつでも多く育つ場としてWITを発展させたいと考えています。福祉・健康・コミュニケーション・社会参加など, 生き甲斐のある生活を支える技術の研究開発に関心のあるHCGメンバの方々による参加・発表をいつでも歓迎いたします。

- ・論文作成・発表アクセシビリティガイドライン
<http://www.ieice.org/~wit/guidelines/index.html>

- ・会議・プレゼンテーションのバリアフリー
<http://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784885522420/>

研究会活動報告 (CML研究会)

CML 3年間の活動―“楽しい学びへの道”を模索して―

CML研究専門委員会

元委員長 原島 博 (東京大)

元幹事 小粥幹夫 (日本経済大)

〈設立経緯と活動経緯〉

電子情報通信学会HCG (ヒューマンコミュニケーショングループ) 所属第3種研究会「未来世代から見たコミュニケーションの魅力と学習意欲向上」は, 2011年 3月14日に発足記念シンポジウムの開催を計画していた。その数日前に発生した東日本大震災によって講師をお願いしていた高校の先生とも連絡が途絶え, 中止を余儀なくされたが, 2か月後には東京で「震災から学んだことを未来につなげるために」をテーマとしてシンポジウムを開催した。

その後, 仙台や石巻で被災地の高校生を招いたワークショップを開催, 高校生の気持ちの理解と支援に努めた。大震災という特別の事態に遭遇した被災地の高校生は, オープンキャンパスに参加, 経験豊かな講師の講義などの刺激に接し, ワークショップでは仲間の発言に共感, 違いにも触発されて自らのことに気づき, 内に秘めていたものを仲間と語る中で, 外部への目を開き, 元気を取り戻して勇気を得た。特別な体験は願いに, 更には目標となり学びの意欲に昇華したとも言える。

その後「楽しい学び実現?」をテーマとして, 3月の総合大会でシンポジウムを岡山, 岐阜, 新潟で60, 100, 60名の参加を得て開催した。高校の先生を主体に「リベラルアーツ」「地域との連携」「新聞」を材料にした対話による変容, アクティブラーニングの実践, ICTによる支援, などのついで報告を頂き, 教育の未来像を模索した。この間2012年には「特別な体験を学ぶ意欲に」

をテーマにして情報処理学会と福島でフォーラムを共催、広島から福島へのメッセージで激励した。また学会誌10月の小特集「人間中心の観点での東日本大震災からの復興」の編集に協力、同年のHCGシンポジウムではキーマンによるパネル討論、2013年の総合大会では「人間の観点からの大震災」開催、大震災の風化防止を訴えた。

〈12月東京でのフォーラム〉
総合大会の地方開催が続く中2013年12月、大学生やイノベーションフロンティア開発を推進する研究・技術計画学会とも連携して東京でフォーラムを開催した。(1) アクティブラーニング (AL) 授業, (2) 地域との連携を通じたキャリア教育, (3) 情報機器の活用による授業の改革, (4) ボランティアやベンチャーの活動の紹介に続き、幸福感に裏付けされた“楽しい学び”をゴールとする社会システムデザインについて、大学の先生を含めたパネル討論を行った。イベントではシステム思考により教育の課題を議論するワークショップを実施、当日は可視化した図を学生が紹介した。

〈これから〉

1) 継続は力

これまでの経緯を踏まえ本年12月 6日東大工学部において同様なフォーラムを開催、東京大学CoREFの三宅なほみ教授に「学びにおける仲間の力」をテーマに基調講演、続くパネル討論では学びや意欲の原点の理解に努めます。このフォーラムは、東大博士教育リーディング「ソーシャルICT-GCL」プログラムの支援も頂いています。

2) 学びのイノベーション求めて

知識基盤社会において心の豊かさを実現する「学びのイノベーション」を実現する社会システムデザインを、オープンな環境の下で関係学会とともに追求します。また総合大会でも大学における教育改革、人材育成を中心としたシンポジウムを継続、学会の教育への在り方を追求、知識基盤社会における教育の新しい定義を引き出したいと考えます。

〈提言とお願い〉

HCGにおいても説教的に次のようなテーマを取り上げるほか、ボランティアを中心とした新たな継続活動にご支援をお願いします。

- ・学ぶこととコミュニケーションの関係性の追求
- ・コミュニケーション、学びにおける画像の役割と活用
- ・マンガ、アニメのコミュニケーションの科学
- ・学びを支援するICT活用やインフラの在り方、システム設計の研究

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。



☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。

(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

(社)電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ

Copyright (c) 2014 IEICE, All Rights Reserved.